

退院調整看護師と病棟看護師との違い



副看護師長 内山千裕

私は2020年4月から医療福祉支援センターへの配属となり、現在、退院調整看護師として日常業務にあっています。それ以前には小児病棟で数年間勤務しており、治療や検査に臨む子供たちやご家族の看護とケアに日々努めていました。当時は子どもたちのキラキラとした眼差しや笑顔に私自身が癒やされ、小児看護の魅力にどんどん引き込まれましたが、医療福祉支援センターにやってきてその業務内容の違いにずいぶん戸惑いました。

既に、勤務異動から半年以上が経過しましたが、いまだに慣れない？職場環境のもと毎日勉強し続けています。

今回は、本寄稿を通じて、「退院調整看護師と病棟看護師との違い」に触れつつ少しぼやいてみようと思います。

<その1>電話って難しい…

医療福祉支援センターにおいて最初に直面したことは、電話対応の難しさです。病棟で勤務していた時にはナースコールへの対応がメインでした。もちろん院内の他部署や院外からの電話着信もありますが、病棟看護師が最も多く対応する電話の機会は、患者さんからのナースコールです。ナースコールに対しては、「〇〇さんどうしましたか〜」「今行きますね〜」と答えすぐに患者さんのそばに駆けつけることができるため、気どころの知れた患者さんにすぐに寄り添うことが可能です。ところが、現在の部署では、院内外の関係各所からさまざまな内容の電話が入ります。時には全国の見知らぬ地域から、自分が聞いたこともない病院や役所等からの電話が入り、どの部署のどの人につなげたらよいのか、また、初対面の患者さんやご家族からの意見に対してどのように対応すればよいのか、今でも分からないことが多くあります。自分自身の不器用さもあるのですが、電話対応しながらメモを取ることは今も得意ではありません。

<その2>夜勤が無い！

病棟看護師としてずっと働いてきた私は、当たり前のように夜勤をして、土日や祝祭日に関係なく勤務してきました。それが、カレンダー通りに平日に働き、毎日、朝一番に出勤して夕方に帰宅するという生活となりました。その一方で、日常業務においては、対応する患者さんの都合や不規則に入ってくる仕事に合わせて時間調整を余儀なくされます。一般の会社に勤めていれば当たり前のことかも知れませんが、病棟に勤務していた時とは全く異なる時間管理能力が必要だと感じます。

<その3>視点の違い

病棟での退院支援といえば、「どの治療を受けたら病気が治るのか」「どのようにしたらスムーズに退院できるのか」「どのような指導をすれば患者家族が医療的ケアを獲得できるのか」といったことを考えていました。決して間違った視点ではないと思いますが、今の部署ではそれだけでは足りません。実際、患者さんやご家族がどのように病気を理解してどのように受け入れているのか。さらに、患者さんが地域や家庭の中でその人らしく生活を続けていくためにはどのような人たちとの関わりを作ればよいのか、どんなサービスを調整すればよいのか、患者さんやご家族と一緒に考えていくことが必要です。物の見方や考え方などは人それぞれですが、少しでも患者さんやご家族の思いに寄り添った看護ができるように、今まで以上に広い視野が必要なことに気づかされます。

今回は、病棟から異動して、退院調整看護師として現在奮闘している私のぼやきを書かせていただきました。病棟看護師と退院調整看護の業務内容は大きく異なりますが、「患者さんやご家族の生活を支えたい」という思いは共通しています。まだまだ未熟な私ですが、精一杯励んでいきますので、今後ともよろしくお願いします。